

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業)
分担研究報告書

脊柱靱帯骨化症に関する調査研究

研究分担者 氏名 谷口 昇 所属機関 鹿児島大学整形外科 役職 教授

研究要旨

胸椎OPLL症例におけるinstrumentation併用後方手術の術後合併症、成績の検討

A. 研究目的

胸椎OPLL症例におけるinstrumentation併用後方手術の術後合併症、成績を検討すること。

B. 研究方法

当院で胸椎後縦靱帯骨化症に対してInstrumentation併用除圧固定術を行った症例を検討。

- ①年齢
- ②術前JOAスコア
- ③知覚障害出現から手術までの期間
- ④歩行障害出現から手術までの期間
- ⑤後弯角の改善率
- ⑥局所骨化率
- ⑦骨化型
- ⑧骨化占拠率
- ⑨最大骨化層の高位
- ⑩髄内輝度変化 (MRI T2)
- ⑪術後感染
- ⑫神経合併症
- ⑬その他合併症

(倫理面への配慮)

インフォームドコンセントの実施と文書での同意の取得

C. 研究結果

過去の報告に2020年手術施行分症例を追加し、解析中である。

D. 考察

胸椎OPLLは術後症状悪化することもあり、治療に難渋する疾患である。後方除圧固定術により著名な改善がない場合、当施設では前方固定を追加する方針で行っている。

また、胸椎OPLL肥満症例における特有の合併症率も考えられ検討中である。

E. 結論

胸椎OPLL症例において胸椎除圧固定術の後弯矯正の重要性が改めて示唆された。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記入

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
第140回西日本整形・災害外科学術集会
Vol. 70 Suppl.2 II-2-27 2020 大血管
損傷を合併した強直性脊椎骨折の2例

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし